

平成27年度 研究のまとめ報告書

豊かな心と健やかな体の育成

平成27年度 東京都教育委員会
オリンピック・パラリンピック教育
推進校・研究開発校



研究のねらい

小学校

～自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して～

小集団活動と言語活動の充実を核とした課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）を推進することで、コミュニケーション能力や感性を育む。

幼稚園

～自分らしく表現する子どもを育てる～

幼児が自信をもって表現し、その子らしさを引き出す援助を探る。

研究の内容

小学校

コミュニケーション能力を育成するために以下の視点を中心に取り組む

- ・小集団的活動（協働的な学習活動）の重視・充実
- ・言語活動の充実
- ・課題解決学習の推進

- ・自分の思い・考えを表現する・伝える
- ・人との関わりの機会を多くもつ

幼稚園

- ・製作活動を通して「自分らしさ」を表現できるような援助と教材・環境の工夫



平成28年2月

中央区立久松小学校 中央区立久松幼稚園



研究主題

豊かな心と健やかな体の育成

～自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して～

子どもたちの環境と現状

- 気の合う限られた集団内での関わり、コミュニケーション
- インターネット・メールでのコミュニケーション
- 思いの一方的な伝達
- 友達や仲間に関する悩みの増加

求められる資質・能力

- 思考力を核にした力 (思考力・判断力・表現力)
- 主体性・関わる力
- 健康・体力
- グローバル化社会への対応
- 言葉で関わる力

多様な課題

育てたい姿

集団の
高まり

伝えたいという
気持ちの高まり

- 自己を確立し、他者を受容する子ども
- 多様な価値観をもつ人と協力・協働し、課題を解決できる子ども

コミュニケーション能力

多文化・異文化
コミュニケーション能力
グローバル化への対応

人間関係形成の
コミュニケーション能力
思いやりの心 いじめの防止

小集団活動と言語活動の充実を核とした課題解決型学習を推進することで**コミュニケーション能力や感性**を育む

課題解決型学習

言語活動

- 体験を表現する・まとめる・書く・伝える・伝え合う・聴き合う
- 対話・討論などにより、よりよいことに気付いたりまとめたりする

小集団活動

- 他者認識と自己認識力の向上
- 違いを受け入れる
- 自己肯定感・関わる意欲の向上

体験活動

- 多様な直接・間接体験の充実
- 非言語コミュニケーションを含めた多様な経験

アクティブ・ラーニングの充実

多様な体験活動

小集団活動(協働的な学習活動)で身に付けられる力

- 他者の考えを聞いたり他者と話したりすることで自分の知識や考えの幅を広げることができる
- 場や相手に応じて対応できる力を身に付けることができる
- 自律性・社会性を身に付けることができる
- 思いやりの心が育つ

指導上の留意点

- 単元指導計画のどの過程で小集団活動(協働的)を実施するのがよいか吟味する
- 児童の役割(分担)を明確にする

言語活動の充実で身に付けられる力

- 思考力・判断力・表現力
言語活動を通して、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる

指導上の留意点

- 単元指導計画のどの過程に言語活動を位置付けるのがよいか吟味する
- 自分で考える時間を保障する
- 自分の考えをノート等を書く活動を設定する

コミュニケーション能力

(人間関係を築く力)

「教科」+「道徳・特別活動・総合的な学習の時間 等」

||

全ての教育活動(アクティブ・ラーニングの充実)

- ①他者と話し合う必然性のある課題の設定
- ②コミュニケーションを深めるための個に応じた指導
- ③互いの考えを知るための工夫
- ④自己評価を生かした指導・学習と評価の一体化



1年 国語科「じどう車すごいぞずかん」をつくろう

目指す児童像（国語科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】自分の考えをもち、自分なりの方法で表現できる子
友達と考えを伝え合い、互いの考えのよさや違いに気付ける子

具体的手だてと活動

ペアによる話し合い

2人で話すことで、話すことへの抵抗を少なくし、より積極的に自分の考えや思いを表現できるようにする。話し合いの中で、自分の考えに自信をもったり、友達の考えと自分の考えを比べたりし、1年生なりに自分とは違う考えのよさに気付くことができる。



はしご車の仕事にぴったり合うつくりは…

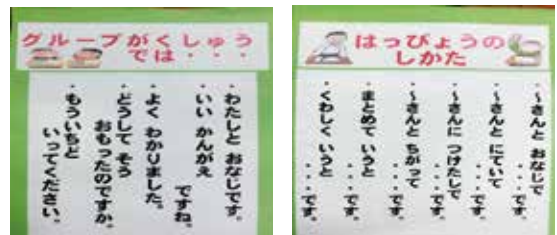
仕事をするには、はしごがあるね。

そうだね。人を乗せるかごもいるんじゃない？



話形の例示

発表するときやペア学習をするとき、友達の考えをしっかりと聞き、自分の考えを確かめる手だてとする。発言の仕方を指導し、授業の中で児童同士の発言が繋がっていくようにする。



振り返りの時間の設定

毎時間授業の終わりに「ねらい」が達成できたか（内容が理解できたか）と、友達と学んで分かったことやよかったことをノートに記入するようにする。そのことで、友達と学び合うことのよさを感じることができる。



〇〇さんの考えは思い浮かばなかったな。いい考えって言ってくれてよかったな。

言語活動の充実

友達やお家の人に「自動車図鑑」をつくって見せるという相手意識、目的意識をはっきりさせた言語活動の場面を設定する。自分だけの「自動車図鑑」が作れることで、自動車のことを調べたい、調べたことを詳しく書きたい、という意欲が持続し、主体的に読んで考え、考えたことを表現することができる。



確実な読み

文章にだけ頼るのではなく、挿絵を活用したり、文章と挿絵を対応させたり、動作化させたりする。そのことで読みが確実なものとなり、自分の考えをもち、自分の言葉で表現できるようになる。

まとめ（成果と課題）

- ・ペア学習をすることで、きちんと相手に伝えよう、相手の話をしっかりと聞こうとする意識がもてるようになってきた。また、自分の考えに自信をもったり、安心して発言したりする児童が増えた。
- ・振り返りの時間は相手のよさを再確認するのに有効であった。
- ・「自動車図鑑をつくる」という言語活動を設定したことで、毎時間の学習の目的がはっきりとし、主体的・意欲的に学ぶことができた。
- ・ペア学習をさせる時間、ペア学習をする回数（同じ課題で相手を変える・違う課題で話すなど）を吟味して取り入れる必要があった。

2年 算数「かけ算（2）九九をつくろう」

目指す児童像（算数科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】自分が考えたことの理由を明確にして表現できる子

具体的手だてと活動

学習形態の工夫（小集団の活用）

自力解決→小集団での話し合い→集団検討の3つの活動が互いに補完し合いながら、自問自答する力や見通しをもち筋道立てて考え表現する力を育てるようにした。



<自力解決>



<集団検討>



<小集団での話し合い>

ICTの活用

タブレットとプロジェクターを使用し、図を拡大したり、回転したりすることで、児童の関心や意欲を高めるとともに、指示を明確にし、視覚的な理解を促せるようにした。



教材の工夫



<操作用ワークシート>
回転したり、折ったりすることで多様な考えを引き出せるようにした。



<自力解決用ワークシート>
多様な考えを図と式で表せるようにした。



<発表用ワークシート>
拡大図と話型を載せ、それを見ながら順序立てて説明できるようにした。

話型の提示

具体的な話型を提示することにより、コミュニケーションを活性化させ、話し合いが深まるようにした。その際、一方的に発表して終わるのではなく、聞く側も発表者の説明を確かめることで相互に関わり合うことができるようにした。

はっぴょうする人

- ① ○の まとまりをつくる 方ほうで、考えました。
- ② まず・・・
- ③ 一つ分の 数は ○ここで、それが ■つ分です。
- ④ しきは ○×■、答えは・・・です。

聞く人

- ① ***さんの 考えを、たしかめます。
- ②～④ 上と同じ



まとめ（成果と課題）

- ・ 話型を提示することで、自分の考えを順序立てて説明することができた。しかし、多様な考えが想定される場合、話型ではなく、キーワードや順序を表す言葉だけを提示した上で、見本となる話し合いのモデルを示す必要がある。
- ・ ICTを活用することで、児童の興味を引き出すことや、児童の考えを全体で共通理解することができた。しかし、プロジェクターで投影した画像は、黒板に残らない。そのため、常に示しておいた方がよい事項を事前に準備し、紙や板書で残しておく必要があった。

3年 体育「器械運動」マット運動

目指す児童像（体育科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】 協力・協働して運動に取り組み、互いの違いやよさを理解できる子

【健やかな体】 自分の力に合った課題をもち、楽しさや喜びに触れながら運動に挑戦しようとする子

具体的手だてと活動

小集団の活用

【知る段階】

自己の動きに気付くために、互いに技を見合い、できているポイントや課題となるポイントを伝え合う。

【取り組む段階】

自己の課題に合った場や練習方法を選ぶために、互いに自分のめあてを伝え合ったり、動きを見合ったりし、個々の技能を高め合えるようにする。



教材・環境の工夫

楽しみながらマット運動につながる感覚づくりをするために、動物歩きやゆりかごを工夫して取り入れる。また、楽しみながら技能を身に付けるために坂道マットやレールマットなどの課題に合った場を設定する。



学習カードの工夫

自分の課題に合った場や練習方法を選択できるように、3つのポイントに沿った場や練習方法を学習カードに載せ、その場で確認・記入する。



声掛けの掲示

小集団活動を活性化させるために、学習カードの記述や児童の発言から、よい声掛けを取り上げて掲示する。

- ・ 技能ポイントに関するアドバイス
- ・ 場や練習方法を選ぶための声掛け
- ・ 励ましや喜びを表す声掛け

励ましの言葉

いいね!

上手だね

できてるよ

アドバイスの言葉

もう少し〇〇
するといいよ。

もっと体をまる
めて転がると
いいよ。



技能ポイントの明確化

技能ポイントを前転・後転で3つずつに絞り、小集団活動で「やってみる」・「見合う」時間を確保することで自分の課題を明らかにしていく。

りょう手をつき、
こしを上げる。

体をまるめて
回転する。

足をひきつけてひざをと
じてしゃがみ立ちになる。



まとめ（成果と課題）

- ・ 技能ポイントや見合い方、声掛けの仕方を明らかにすることで小集団活動が活発になり、友達と関わ合いながら技能を高めることができました。
- ・ 児童が技のポイントを正確に判断するために、互いに見合うための視点をより明確にすることが課題である。

4年 学級活動 活動内容(1)「最高の思い出づくり」

目指す児童像(学級活動 活動内容(1)の目標及び研究主題より)

【豊かな心】 みんなで協力し、よりよい生活づくりのために自ら考えて行動できる子
友達と考えを共有し、自ら考え、表現することを楽しむことができる子

具体的手だてと活動

学年目標を貫く

4年生の学年目標は、「スクラム 自立と協調」。
この目標をベースに、様々な学校行事や学級活動などのめあてを設定することで、目標の意味を実感し、その目標の達成のために今すべきことを自ら考え、行動できるようにする。学年末には、子どもたちがそれぞれの達成感を感じ、自己肯定感を高め、高学年になれるよう、年間を通して、学年目標に意識を向かせるようにする。



小集団での話し合い

最高の思い出づくりを計画するための話し合いでは、一人一人が自分の考えを伝えやすいよう等質集団を構成した。全ての子どもたちに自分の意見を伝える機会を与え、今後の発言意欲につなげていきたいと考えた。

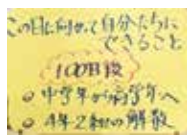
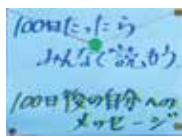


めあての意識化

本学習は、「スクラム完成まであと100日」から始まった。今までの楽しかった生活を振り返り、残りの日々を大切に過ごしていきたいという気持ちを抱かせるためにも、このクラスになり約300日が経過し、残り100日に迫っていることを子どもたちが知ることは大切であると考えた。残り100日の過ごし方について自ら考えることで、めあてに対する意識が高まり、今後の活動意欲につながると考えた。

4年2組の思い出ランキング

- 1位 わのんだスクール (70分) (ホムランナーなど)
- 2位 赤いのりコースと遊具や校舎見学
- 3位 遊園会
- 4位 酒席しりし
- 5位 校外研修に友達と過ごしたこと



収束と拡散に分けた話し合い

話し合い活動は、拡散の段階ではブレスト会議によって発想を広げ、収束の段階では4ハット会議によってアイデアを絞っていくこととした。4ハット会議では、発言者の立場(提案者、問題の指摘、応援、お助け)を意識化することで、意図的にいろいろな視点をもった話し合いが展開することができ、話し合いがより深まると考えた。また、子どもたちの話し合いがそれていかないよう、事前にアイデアを絞る基準について子どもたちに話し合わせることで、話し合いの観点を明確にすることとした。



まとめ(成果と課題)

- ・ 4ハット会議では、意図的に様々な視点をもたせて話し合いをすることで、今までより話し合いの深まりが見られた。また、問題の指摘に関しては、今まで反対意見に対してあまり良いイメージはなかったものの、そのアイデアをより良くするために反対意見はあるという共通の認識をもつことで、反対意見に対しても嫌な気持ちにならず、安心して話し合いを進めることができた。
- ・ 話し合いをより良くするための教師の関わり方に今後の課題があると感じた。どのような場面でどんな助言が有効であるか、振り返りにおいて、子どもの良い発言や話し合いの姿勢を取り上げていくために、何をねらいとして、話し合いをどのように見取るかをしっかりと考え、今後の話し合い活動につなげていきたい。

5年 国語科「読むこと」～職人の生き方・考え方に学ぼう～

目指す児童像（国語科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】多様な考えのもとで、広げ、深め、明らかにした自分の考えを言葉で表現できる子
互いの意見を伝え合い、様々な価値を共有できる喜びを感じられる子

具体的手だてと活動

言語活動の充実

本単元では、一人のかじ職人の生き方から学んだことを、自分の生活にどう生かそうとするのかを互いに伝え合う言語活動を設定した。そのために、個々の考えを広げ、深め合う話し合い活動や手紙文、意見文等の記述によって考えを整理する「書く活動」を意図的に学習過程に位置付けた。



小集団での交流

自分の考えを明確にするには、裏付けとなる理由や根拠が大切。小集団での交流で、他者と自分の考えが比較できると、自分の考えを支えている理由や根拠は適切であるかどうかを自ら判断するようになる。児童は、その後の全体交流を経て、最終的な考えをまとめ、文章化した。



一番見事な釘の特徴は「かたさ」だと思います。

資料とその提示の工夫

児童の学習意欲を高める工夫として、かじ職人が努力の末に完成させた「本物の釘」を提示した。指導計画のどの段階で提示すると最も効果的であるかを考え、意図的、計画的に活用した。本物に触れさせることによって職人の仕事に対する苦労や情熱を伝えることをねらった。



学びの必然性を生む発問

教材文を読み深める過程で、児童自身の判断で解決すべき課題を発問の形で投げ掛けた。それにより、自分の判断のもとで考えたことは、ぜひ意見交流してみたいという意識につながり、必然性のある話し合いが実現できた。（課題解決型の学習場面）



古代の釘の一番の見事さって何だろう……。

まとめ（成果と課題）

- ・「本物の釘」を資料として提示したことによって、児童の学習意識を高めることができた。
- ・協働的な話し合い活動によって、個々の児童の考えが明確になった。学習のゴール地点では、児童が「信念」「決断力」「責任」「自分に問い掛けることの大切さ」など、教材文にはない自分自身の言葉で考えを表現し、伝え合うことができた。これらの言葉は、日常生活のどんな場面で自分自身への励ましや支えとなるのかを語り合うことによって、「生き方」をさらに身近なものとして受け止めることができたろうと考える。

6年 社会「国づくりへのあゆみ」

目指す児童像（社会科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】物事を多面的に捉えたことで構築した自己の考えを大切に
する子
多様な価値観をもつ人と協働し、共に生きていこうとする子

具体的手だてと活動

自己の考えを大切にする

物事を多面的に捉えたことで構築した、自己の考えを大切に
する児童の育成を目指す。また、そういった考えを友達の前で表現
できる環境を整えていくことが具体的手だてとなる。



考える時間の保障

全ての児童が自己の考えをもてるようになることが自己の考え
を大切にできる第一歩であると考えた。そのために、1単位時間
の考え方を以下のように工夫した。

課題把握

自己の考えの確立

小集団活動

自己の考えの再構築

発表・検討

まとめ・振り返り

2時間扱い

「考える時間」の保障



小集団の活用

ただ、児童が関わり合うだけでなく、「何について」話し合い、
「どのようにまとめるか」を重点にして小集団活動に取り組ん
だ。その中で、新たな考えに出あったり、自分の考えに自信がも
てたりするようにした。



協働的な学び



意欲を喚起させる工夫

「自分の考えをもちたい」という環境づくりや「話し合いたい」
と感じるような必然性を生む資料提示が、自己の考えをもつた
めには不可欠であると考えた。

教室の掲示環境の整備



児童の手元にも資料



効果的な資料



まとめ（成果と課題）

- ・考える時間を十分に保障したことで、自己の考えを大切にできるようになり、小集団の活動で多様な価値観に触れたことで他者の考えも大切にできるようになった。
- ・より質の高い話し合いとするために、今よりもさらに「話し合いのゴール」を明確にする必要性を感じた。

5年 算数科「図形の面積」

目指す児童像（算数科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】自分の考えをもち、筋道を立てて説明することができる子
自分の考えをもち、友達の考えを取り入れ自分の考えに生かす子

具体的手だてと活動

小集団と小集団でのペア活動

小集団における個々の関わりから、集団同士の関わりへと広がる学習過程とすることで、一人一人のより充実したコミュニケーション能力の育成を図った。



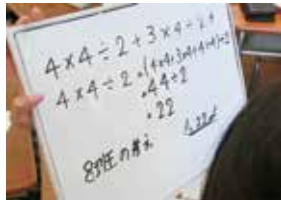
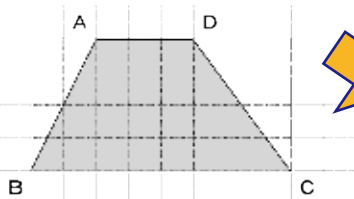
小集団内での活動

根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明する経験を全員ができるように、小集団(3人程度)の活動を取り入れた。
小集団の中で互いに問題を出し合い、それぞれの問題を考える。考えたことを根拠を示しながら交流することでお互いの考えのよさを知るようにした。一連の活動を通して、より多くの考え方を知り、自分の考えに生かせるようにした。



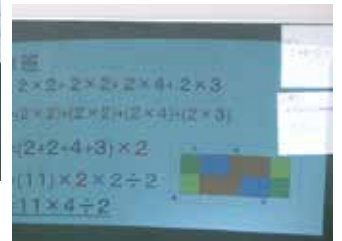
クイズ形式による既習を生かした学習

他者に既習事項をもとにした、式からどのような図にして求めたかを考えるクイズ形式で出題するようにした。そのことで出題者と解答者の間に交流する必然性が生まれた。



ICTの活用

プロジェクターを使って子どもたちの考えた式や図を黒板に投影したことで、児童の発表をこれまでより大きな形で行え、全体で共有したいことの伝達が進んだ。



まとめ（成果と課題）

- ・小集団の交流の内容を式から考えるクイズ形式にしたことで、児童の意欲的な活動につながった。
- ・友達の考えた様々な式を既習事項をもとに考え、説明することで自分の考えに根拠付けをすることができた。
- ・多くの考えを児童だけで一般化させていくのは困難な内容だった。もし、児童だけで一般化していくのであれば問題をつくる際の視点を焦点化する必要がある。

4年 音楽科 題材「音色の美しさを感じて表現しよう」 教材「歌のにじ」

目指す児童像（音楽科の目標及び研究主題より）

【豊かな心】互いのよさや価値を認め合い、友達とともに音楽をつくり上げようとする子
進んで音楽に関わり、思いや意図をもって表現できる子

具体的手だてと活動

互いのよさや価値を認め合う

器楽表現の学習では個々の技能差による進度の違いが常に大きな課題となっている。技能差を簡単に埋めることは難しいが、器楽に苦手意識を感じている児童であっても自信をもって意欲的に活動できる学習課題を提示したり、能力差にかかわらず対等な立場で思いや意図を伝え合える場を設定したりすることで、主体的に関わりながら互いのよさや価値を認め合い、より美しい音をともにつくり上げることができると考えた。



協働的な学習活動

《助け合いの段階》 （小集団①）

- ◎技能差の平均化◎
男女混合、コミュニケーションの取りやすい人数などに配慮し、互いの課題をともに補い合えるようなメンバー構成にする。
- ◎十分な練習時間の確保◎
個々の課題を練習するための十分な時間を確保した上で、解らないところや間違えているところなどを互いに教え合う。



《学び合いの段階》 （小集団②）

- ◎対等な立場での交流◎
器楽学習に苦手意識を感じている児童であっても自分の考えを自信をもって伝えられるよう、アドバイスに役立つ定型文や話型を活用する。
- ◎学び合いの必然性◎
本題材における小集団活動のルール（課題）を以下の二点とした。

①全員が毎回自分の考えを発言する
 ②合格は全員の総意があったときとする

 自分の考えを発言せざるを得ないという状況により、友達の演奏を細部までもらさずに聴こうとしたり、さらに良い表現につながる的確なアドバイスをしようとしたりする意欲が生まれる。

言語活動の充実

《アドバイスポイントの提示》

伝えたいことを的確な言葉で表現できるよう、アドバイスをするためのポイントを示した定型文（「リコーダー奏のポイント」）を活用する。



《アドバイスの仕方の提示》

良いところや間違っているところを伝えるだけでなく、さらに良い演奏にするために改善すべきポイントもわかりやすく伝える。必要に応じて簡単な話型を示した「アドバイスの仕方の例」を参考にする。

小集団の活用

まとめ（成果と課題）

音楽的な技能差や進度の違いがあっても対等な立場でともに良い音楽をつくっていくことはできないものか、という課題のもと取り組んだ活動であったが、はじめは意見やアドバイスを伝えることさえ戸惑っていた児童が題材の最後には、自分の考えを自信をもって伝えることができた。今後さらに工夫を重ね、様々な表現活動に生かしていきたいと考える。

教育目標

○たくましい子

○進んでやる子

○心豊かな子

本園の幼児の姿

教師の願い

本当はこうやりたいけど、どうつくったらいいんだろう？

先生と同じようにつくらなくちゃ。

こうつくったらおかしいかな？



苦手だからやりたくないな…

つくるのが面倒だからなくてもいいや。

表現する喜びを感じてほしい。

のびのびとつくったり描いたりしてほしい。

自分のよさに気付いてほしい。

自分に自信をもって、取り組んでほしい！

研究主題

豊かな心と健やかな体の育成

～自分らしく表現する子どもを育てるために～

「自分らしさ」とは

- ・自信をもって思いを出す
- ・やりたいことに自分から取り組む
- ・友達と関わる

幼児が自信をもって表現し、その子らしさを引き出す教師の援助を探る

製作活動を通して「自分らしさ」を表現できるような具体的な手だてを探る

昨年度の成果から

- イメージを楽しめる環境
- 自由性・選択性の保障
- 意欲がもてるための目標を視点とする

活動例の吹き出し

イメージをもって
製作を楽しめる環境

自由性・選択性が
保障された環境

意欲がもてるような
具体的な目標

年少組

目指す幼児像 ○安心して自分の思いを出す。

ピザづくり (7月)



○いろいろな色の画用紙を用意した。

・ピザにのせる具材に見立てたり、たくさん具材をのせようとしたりする姿が見られた。



○興味をもってつくり出せるように、身近な食べ物を題材にした。
○つくったものを遊びに使ったり、お店屋さんのやりとりを楽しんだり、なりきって遊べる場 (ピザ屋さん) を用意した。

・興味をもったり、自分からつくり出そうとしたりする姿につながった。
・つくったものを遊びに使う楽しさや、教師や友達とのやりとりを楽しんだり、なりきって遊んだりする姿が見られた。

○つくることを楽しめるように、教師が、「こんなピザをつくりたい!」という幼児の思いを受け止めたり、出来上がったものを認めたりする声をかけた。

・自分でできた嬉しさや、つくる楽しさを感じ、繰り返し取り組む姿につながった。

くだものづくり (10月)



○好きなくだものをつくるのが出来るように、素材 (京花紙、画用紙) の色や形を2,3種類用意した。

・「柿をつくりたい」「次は梨をつくる」と、つくりたいくだものに合った色の京花紙や葉の形を選ぶ姿が見られた。



○身近にある季節のくだもの (林檎、梨、柿) を題材にした。
○つくったくだもので遊べるように、手に持てる籠を用意した。

・つくったくだものを籠に入れて、「くだもの屋さんですよ」と、言いながら籠を持って歩くことを楽しむ姿が見られた。



○本物の柿を保育室に用意した。
○つくったくだものが入れられるように、「食べ物列車」の歌に合わせた「さくら組列車」の壁面飾りを用意した。

・友達の列車にくだものが増えていく様子を見て「自分のくだものが欲しい」という姿が見られた。
・幼児にとって、つくりやすい、扱いやすい、材料だった。

3歳児まとめ

・幼児にとって、身近な題材 (食べ物) を取り上げることでやってみたいという思いにつながった。
・幼児が取り組みやすいよう、簡単につくることができるような教材を用意したことで、安心して取り組んでいた。
・つくったものを遊びに使ったり、持ち歩いたりできるようにしたことで、つくったもので繰り返し遊びを楽しむ姿につながった。
・教師が幼児の姿を認めることで、安心して取り組んだり、嬉しさを感じたりして、繰り返し遊ぶようになった。

活動例の吹き出し

イメージをもって
製作を楽しめる環境

自由性・選択性が
保障された環境

意欲がもてるような
具体的な目標

年中組

目指す幼児像 ○自信をもって自分の思いを出す。

くだものづくり (9月)



- イメージをもってつくることが楽しめるように、幼児にとって身近なくだものを題材にした。
- 幼児が、色や形をイメージできるような声掛けをした。
- つくったものを入れられる手作りの籠を用意した。

- ・興味をもって取り組み、「柿はちょっと四角だよ」と形を考えながらつくっていた。
- ・つくったくだものをままごとやお店屋さんごっこに使って遊ぶ姿が見られた。

- やってみたくらいという気持ちももてるよう、幼児にとって身近であるくだものを題材にした。
- 幼児が興味をもちそうなつくり方や素材を選んだ。
- 遊びにつながるように、教師がお店屋さんになって遊ぶ姿を見せた。

- ・興味をもって自分からつくり始めた。
- ・つくる工程が楽しく、たくさん作る姿が見られた。
- ・遊びに使われていることで、友達の作品を目にする機会が増え、自分も作ってみようとする姿につながった。

車づくり (ゴムタイヤを使って) (11月)

- 教師がつくった車を走らせるところを見せた。
- 車の絵本や図鑑を用意した。
- 「はしご車のはしごはどれくらい長いの?」「暗い道を走るにはライトが必要だね」など、幼児がつくりたい車を具体的にイメージできるような声をかけた。

- ・絵本を見たり、教師の声を聞いたりして、ライトや窓など必要な部品を考えてつくる姿につながった。

- 好きな素材を選んで組み合わせることを楽しめるように、いろいろな大きさや形の材料(空き箱、画用紙、キャップ、ビニールテープ、スズランテープなど)を用意した。

- ・つくりたいイメージに合ったものを考えたり、試したりする姿につながった。

- 動かして遊ぶことを楽しめるような教材にした。
- 友達の作品に関心をもてるように、友達の車を紹介する機会をつくった。
- 走らせて遊ぶことのできる場を保障した。

- ・動くことに魅力を感じ、つくりたい気持ちにつながった。
- ・友達の車を見て、自分なりに取り入れようとする姿が見られた。



4歳児のまとめ

- ・親しみがあり、イメージしやすい題材にすることで意欲的に取り組めた。
- ・遊びに活かされる教材にしたことで、遊びが広がり、友達を認める姿につながった。
- ・つくる楽しさを味わうために、幼児が選択できるように材料を整え、一人一人が試したり工夫したりする姿を認めることが大切だった。

活動例の吹き出し

イメージをもって
製作を楽しめる環境

自由性・選択性が
保障された環境

意欲がもてるような
具体的な目標

年長組

目指す幼児像 ○自信をもって自分の思いやイメージを表現する

ママごと キッチンづくり(9月)



シンク

○一緒につくる友達とのイメージが共通になるように、「色はどうしようか?」「お家のキッチンはどうなっている?」など、方向性をつくる声掛けをした。

・イメージしたキッチンが本物らしく形になったことで、遊びに取り入れ、繰り返し使う姿につながった。

○幼児が使いたい材料や用具を教師に要求する姿を認め、用意した。

・幼児が自分のイメージや目的に合う物を選ぶことができた。



コンロ

○幼児のイメージを受け止め、本物らしくつくることのできるような材料(割ピン、銀色の工作紙)を提示したり、これまでの経験(目打ち、両面テープ等)を生かしてつくる姿を認めたりした。

・材料やつくり方を工夫したことで、本物らしくできあがり、動かしたり、料理ごっこをしたりして遊ぶ楽しさを味わえた。

○つくりたい大道具のイメージが具体的にもてるように、イメージのヒントとなりそうな数種類の絵本や紙芝居を用意した。
○一人一人のイメージを絵に表して友達に伝えるよう促し、グループでつくりたい大道具のイメージが共通になるようにした。

・友達と共通のイメージに向かって、協力しながら大道具をつくる姿が見られた。

○幼児がこれまでの経験(ローラーを使う、三つ編みをつくる等)を生かして、製作活動に取り入れようとする姿を認め、実現できるようにした。

○教師が用意したいろいろな材料の中から、幼児が目的に合う物を自分で選んでつくる姿を認めた。

・大道具づくりに必要な材料やつくり方を自由に選んだり、考えたりして、友達と相談して決める姿につながった。

○グループで共通の設計図を描き、それを見ながら大道具づくりに取り組めるようにした。

○グループ毎の大道具づくりに取り組んだ後、学級全体でつくったものを発表する機会をつくり、友達の刺激が受けられるようにした。

・グループで共通の目的に向かって製作を楽しむ姿が見られた。
・仲間と力を合わせてできた喜びを感じ、互いのよさを認め合う姿につながった。
・みんなでつくった大道具を劇に使うことに期待をもつ姿が見られた。

劇の大道具 づくり(11月)



5歳児のまとめ

・イメージが具体的になるような言葉を掛けたり、イメージを絵(設計図)に描いて見合う機会をつくったりすることで、幼児が共同で製作するとき、共通の目的に向かって、意欲的に取り組む姿につながった。

・幼児がこれまでの経験を生かして製作することができるよう、いろいろな材料や用具を用意したり、友達の姿から刺激を受けられるように援助したりすることが大切である。

豊かな心と健やかな体の育成のために

ロング放課後遊び(週2回 1時間)

時間、空間、仲間の減少という現代の児童をとりまく運動についての課題を解決するために、毎週火曜日と木曜日に「ロング放課後遊び」の時間を設けている。

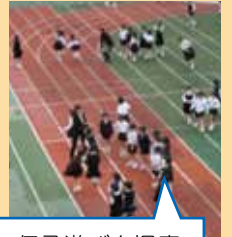


運動遊びの中で、児童は自己決定を繰り返し、自己有用感を得ることができる。教科等とは異なった側面から豊かな心と健やかな体の育成に迫ることができる。

自由な発想で遊び方を工夫し、仲間とコミュニケーションをとりながら、体を動かすことの心地よさを味わうことができている。



楽しい運動遊びや伝統、伝承遊びを児童に広め、より多様な運動遊びに親しむことができるように環境を整備している。



豊かな心と健やかな体の育成 まとめ

成果

- 小集団活動・小グループ活動での学習により学び合い(他者との協働)が充実し定着した。
 - ・他者を認め、自分を認めてもらえる喜びが味わえる。
 - ・思考が深まった。
 - ・自分の考えに自信をもち、発言が増えるなど、主体的な学びの姿が多くなった。
- 言語活動が充実した。
 - ・自分の言葉で伝えようと、話し合いが活性化した。
- 課題解決型学習(アクティブ・ラーニング)が定着した。

小

幼

- 身近なものや親しみのあるものが、イメージしやすく自分なりにつくってみようとする気持ちもてるようになってきた。
- 教師がありのままの表現を受け止め、認めることで、のびのびと表現する姿につながった。
- 教師が意識して、援助や教材を工夫することで、幼児がやってみようとする気持ちになった。

課題

小

- 小集団活動の中で、目的に応じて個の力を確実に高めていけるようにする。
- 聞き手の意識を育てていく。●多角的な評価が求められている中、評価方法をさらに工夫する。
- 発達段階に即した言語活動の指導内容の明確化・系統化

幼

- 幼児がやりたいことをする(つくりたいものをつくる、描く)ためには、意欲だけでなく技術も必要である。そこで、発達に応じた経験を積み重ねていくための教材・援助の工夫を探っていく必要がある。

【御指導いただいた先生方】

教職員研修センター 研究開発課指導主事	野澤 一代 先生	文部科学省体育参事官付教科調査官	高田 彬成 先生
元明石小学校校長	岸本 修二 先生	武蔵野短期大学客員教授	持丸 順子 先生
中央区教育委員会 指導室長	佐藤 太 先生	副参事	吉野 達雄 先生
統括指導主事	柄澤 武志 先生	丸山 順子 先生	指導主事
指導主事	大屋 博文 先生	川越 裕子 先生	清水 浩和 先生
	幼児教育担当専門幹		

【研究に携わった教職員】

(◎研究主任 ○研究推進委員)

校長	酒井 寛昭	副校長	新屋 由美子	園長	早川 幸	主任	田村 みず希
小学校				幼稚園			
1年	醍醐いづみ	関口里可子	音楽	高石 美佳	北爪 梓	阿部 真秀	
	○幸徳扶美子	○南村 章子	図工	古館 俊江	◎佐久間 栄美	齋藤有紀恵	
2年	○太田 倫子	黒岩まい子	理科	千葉 日織	谷澤 千尋	○鈴木久仁子	
	菊池 佳子		算数少人数	○越智 啓太	梅本 理紗	○村上 佳織	
3年	森田 慎	太田 知依	養護	上野 弘子	加藤 幸代	阿部奈津代	
	○伊藤 幸恵		非常勤教員	比毛 幸子	荒木 麻耶	櫻井 美樹	
4年	川瀬 穰	大沢 卓美	算数少人数講師	門間 政博	高木 淳子	岩城 隆子	
	○鈴木可奈子		体育指導補助員	杉坂康二郎	夏目 篤子		
5年	○川島 幹雄	水上美穂子	体育指導補助員	澤登 千恵			
6年	杉田 高樹	◎中嶋 友晴	栄養士	片岡 奈津			
			事務	安井 教晶			